

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

Asia Weekly (3/17~3/21)

発表日:2008年3月24日(月)

~米国経済の減速による輸入の減少は、アジア諸国の輸出に影響を及ぼし始めている~

第一生命経済研究所 経済調査部
副主任エコノミスト 西濱 徹
(03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
3/17 (月)	(シンガポール) 2月非石油輸出 (前年比)	+7.3%	+9.4%	+2.8%
3/18 (火)	(香港) 2月失業率 (季調済)	3.3%	3.4%	3.4%
3/19 (水)	(マレーシア) 2月消費者物価指数 (前年比)	+2.7%		+2.3%
	(香港) 政策金利 (基準金利)	3.75%		4.50%
3/20 (木)	(香港) 2月消費者物価指数 (前年比)	+6.3%	+4.9%	+3.2%
	(インド) 卸売物価指数 (3/8時点、前年比)	+5.92%	+5.21%	+5.11%
	(タイ) 2月輸出 (前年比)	+16.4%		+33.3%
	2月輸入 (前年比)	+33.1%		+49.1%
3/21 (金)	(韓国) 10-12月期実質GDP (改定値:前期比、季調済)	+1.6%		+1.3%

(注) コンセンサスはBloomberg及びREUTER調査

~シンガポール~

17日、シンガポール国際企業庁が公表した2月の非石油輸出は、前年同期比+7.3%と前月(同+2.8%)から大幅に加速した。化学製品及び加工品における輸出の伸びがそれぞれ同+5.4%、同+18.3%と前月(それぞれ同▲5.8%、同+3.8%)から大幅に伸びたことが影響した。ただし、同国の化学製品や医薬品部門は、各月の生産額に大幅なバラつきが見られる傾向が強いことから、今回の伸びの拡大が先行きも継続すると見るのは極めて早計と言えよう。一方、輸出の太宗を占める機械及び輸送機器については、輸出の伸びが同+6.8%と前月(同+7.3%)から鈍化傾向を示している。国別に見ると、米国向けが同▲5.2%と前月(同▲4.6%)に引き続き前年比マイナスとなった一方、EUやアジア諸国向けが堅調な伸びを示し、米国向けの減少をカバーした格好となっている。

なお、米ドル換算値ベース(参考値)では、2月は通貨シンガポール・ドルの対米ドル為替相場の増価が一層進行したものの、前年同期比+16.4%と前月(+14.8%)から若干加速した。

図1 シンガポール 輸出入の推移(前年比)

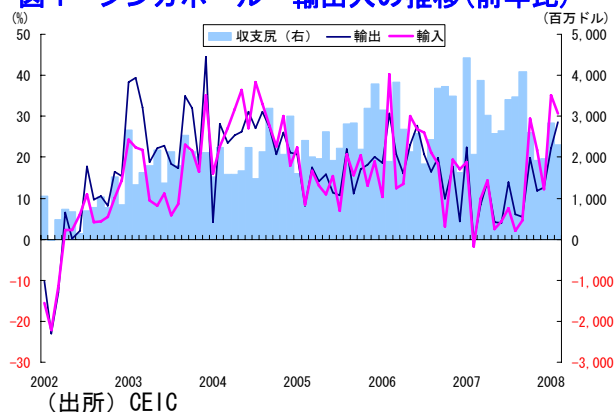
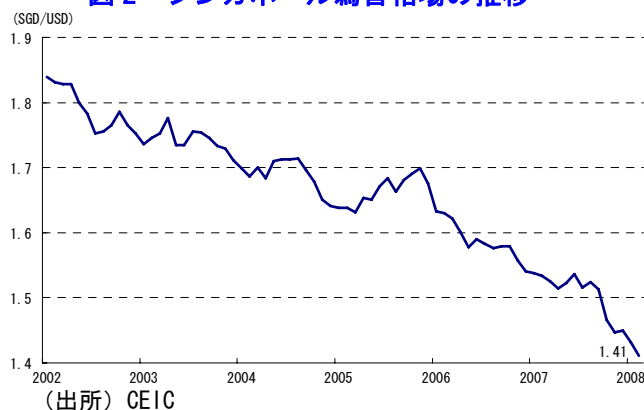


図2 シンガポール為替相場の推移



～香港～

20日、香港政府統計処が公表した2月の消費者物価指数は、前年同期比+6.3%と前月(同+3.2%)から大幅に加速し、1997年7月以来の高い伸びを記録した。通貨香港ドルは米ドルとのペッグ制を採用しており、このところの米国連邦準備制度委員会による度重なる金利引き下げに従う形で、香港金融当局も金利引き下げを断行、主要貿易相手である中国通貨元に対する大幅減価が輸入物価の上昇を招いており、食料品価格は前年比+10.9%と、前月(同+8.8%)から伸びが加速した。食料品以外では、香港政府が昨年2月に公営住宅の家賃に対する補助金支給が実施を実施した一方、この2月はその影響が剥落した影響で、住宅価格は前年比+9.3%と前月(同+1.0%)から大幅に加速することとなった。

なお、18日に公表された2月末時点の失業率(季調済)は3.3%と、依然として雇用環境は過去10年間で最も改善しており、所得上昇圧力が高まっている中、先行きの消費者物価動向は上昇基調を強めていくものと思われる。

図3 香港 消費者物価指数の推移(前年比)

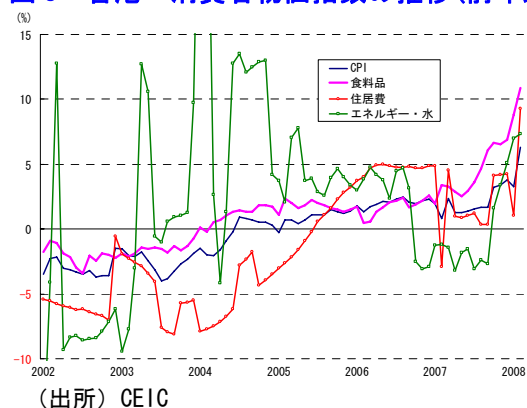


図4 香港 対中国元為替相場の推移

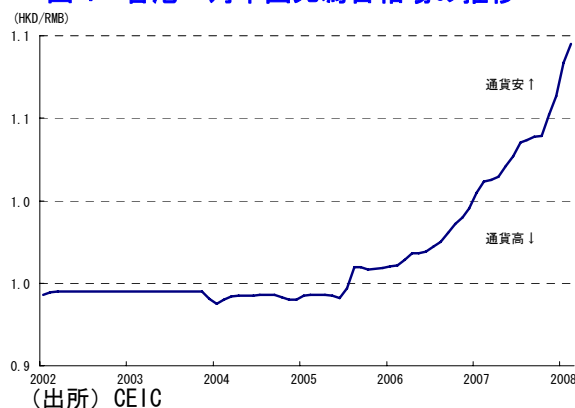
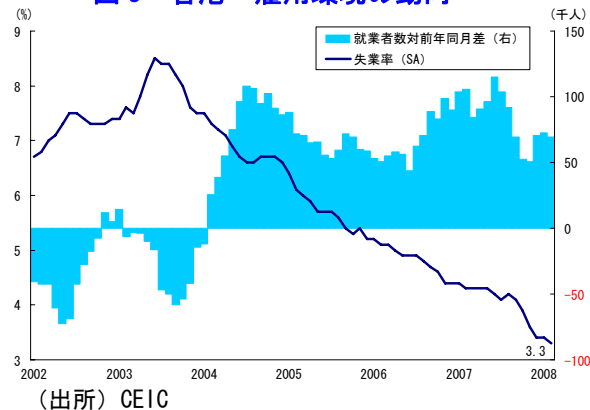


図5 香港 雇用環境の動向



～タイ～

20日、国家関税局が公表した2月の輸出は、前年同月比+16.4%と前月（同+33.3%）から大幅に減速した。米国経済の減速に伴う米国向け輸入の減少に加え、通貨バーツが対米ドル増価基調を強めていることによる輸出物価の上昇も影響したものと考えられる。

一方、輸入は前年同月比+33.1%と前月（同+49.1）から減速したものの、高い伸びを示した。1月に発足した新政権は、米国経済の減速による国内経済への波及を抑制することを目的に、大規模な財政出動と減税措置を実施しており、内需の底上げに伴う輸入需要は旺盛に推移している。

この結果、貿易収支は2ヶ月連続でマイナスとなり、経常収支の悪化は避けられない。国際的な金融市場の不透明感が強まっている中、同国向けの投資資金が大量に流入することは見込みにくく、先行きのタイバーツ相場は対米ドル減価方向で推移していくものと見込まれる。

図6 タイ 輸出入の推移(前年比)

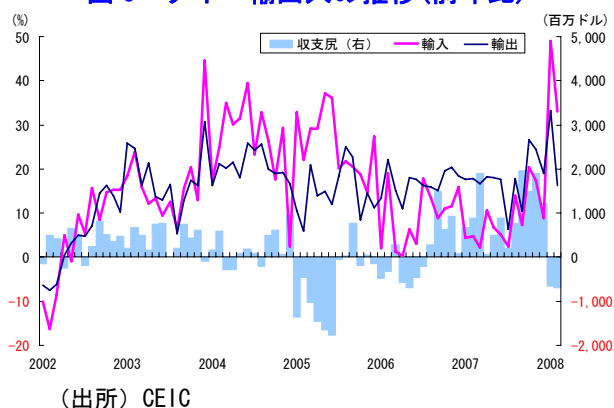
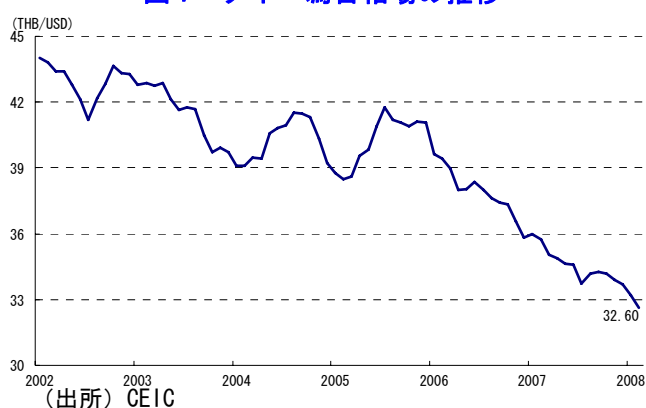


図7 タイ 為替相場の推移



以上